

# 種を植えよう

子どもたちは、種を観察して「どうやって植えるのかな」「早く植えてみたい」という思いや願いを膨らませています。これから長い栽培活動のスタートになる大切な時間です。子どもたちが「できそうだ」「楽しそうだ」などの思いをもてる活動にしたいものです。

ここが  
ポイント

活動する場所と道具の準備を！

種を植える活動は、多くの気付きを生んだり、長い学習のきっかけづくりができる活動なのですが、とかく作業ばかりになりがちです。教師側が見通しをもち、前日までに活動する場所や道具の準備をしっかり行っておくことが大切です。

ここが  
ポイント

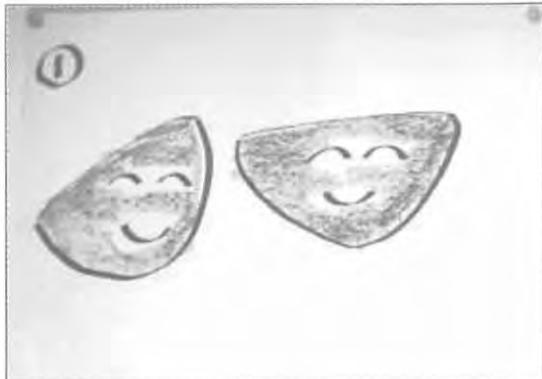
紙芝居を使って！

紙芝居でお世話の仕方を楽しく紹介してみることも効果的です。紙芝居にしてみると子どもの気持ちを引き付けることができます。

このとき大切なことは、紙芝居を単に読み上げていくのではなく、子どもと教師がやりとりをしながらみんなで考えを出し合い、「気を付けること」「育て方のコツ」に気付いていけるようにすることです。

## あるある NG!

種を植える時には、「種はこうやって植えますよ。お世話で大事なことはこういうことですよ…。」という具合に、ついつい教師の一方的な指示が多くなりがちです。それでは1年生の子どもたちはなかなか理解してくれません。子どもの気持ちを引き付けたり、子ども自身が考えるような工夫が必要です。



こんにちは。ぼくたちはあさがおの種です。これから花が咲くまで長い間よろしくね。  
大事にしてくれると嬉しいなあ！

ぼくたちは、「ぽかぽか」した暖かい所と「しっとり」した土のベッドが大好きです。



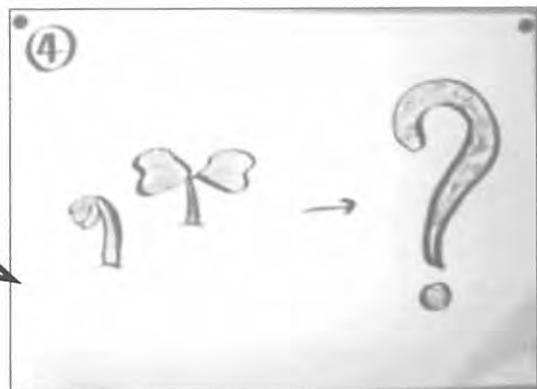
「しっとり」だから、水をあげ過ぎちゃだめなのかな。



困っちゃうのはこんな所。  
みんな分かるかな？  
そうそう。寒い所や水をたくさん飲まされて息ができないこと…。



大事にしてお世話をしてくれたら芽が出て、葉っぱが出て…どんどん大きくなっていくわ。



ここが  
ポイント

## ゲストティーチャーをお願いして！

あさがおに詳しい方や校長先生などに「あさがお先生」になってもらい、ゲストティーチャー（G T）としてかかわってもらいます。

先に紹介した紙芝居を使って教えてもらうと、子どもたちにとっては特別な時間となります。

G Tをお願いすることができない場合でも、チームティーチング（T T）

を活用し、複数の教師で学習を進めていくことも考えられます。そうすることで、教師も余裕をもって子どもとかかわることができます。



### あるある NG!

種を植える活動の際に、「土をこぼさないように！」「鉢はそっと持たなければダメですよ！」などと、ついつい注意をしたり、叱ったりする場面が多くあります。

教師が余裕をもって子どもたちにかかわることができれば、子どもが土をこぼしても、「もう一度ふわふわのベッドを作ってあげようね。」と話しながらこぼした土と一緒に戻してあげられます。

また、種を植える時の「大きく育ってね。」「早く芽を出してね。」といった子どものつぶやきにも耳を傾けて声をかけてあげることもできます。

### 気付き！

紙芝居を聞いたり、絵を見たりしながら話し合うことで、「土は大事なベッドだからこぼさないようにしよう」「運ぶときはそろりそろりと歩くよ」などと気付きを生むことができます。

あさがおの種を植えた子どもたちは、毎日水やりをして、発芽を楽しみに待つことでしょう。雨の日に傘をさしてまで水をやる子どもがいるかもしれません。発芽を心待ちにしている気持ちを温かく支えていくとよいでしょう。

ここが  
ポイント**発芽を喜ぶ！**

「先生、芽が出てたよ。」と言った言葉が出た時に、タイミングよく観察ができる環境にしておきましょう。小さなカードにすると、時間がかからずかける子が多いようです。発芽時期はばらばらになってしまないので、時間をかけることは難しいですが、短い時間でもその時の喜びを言葉や絵にして残しておきます。「ちょうどよい形だったね。」「葉っぱに筋がついているよ。」「トンネルが出てきたよ。」「黒い帽子をかぶっているよ。」カードに記録させながら、このような子どもの気付きを価値付けて、「みんなのあさがおも明日はこうなっているかな？」と、期待をもたせたり、見方を知らせておくことが大切です。芽出た日には、牛乳で乾杯！これで、お祝いの気持ちも高まります。

ここが  
ポイント**残念ながら芽のないこともあります！**

あさがおの種は早いもので4～5日、遅いものでも2週間くらいで芽を出します。しかし、なかなか出てこない時もあります。原因として考えられることは、次のことです。

- 種まきの時期が早く、気温が低かった。
- 水を与え過ぎた。与えなかった。
- ほんの少し芽が出た種に、水をかけたため、土がえぐれて種が倒れ根を張ることができなかった。
- 種を鳥などに食べられた。
- 種を植え忘れた。

あまり出てこない時には、種を植え直したり、教材園に植えた苗を移植したりして、子どもの期待感をつなげていきます。



芽が出来たら、大きく育てるためにはどのようなことが大切かを考えさせます。太陽の出ているところを探して鉢を移動させたり、風や水の関係を考える子どもが出来きます。「こんなふうにしてみようと思ってるんだね。」と試す気持ちを育てていきます。



### Active

朝のうちに水やりを済ませましょう。その時には、一緒に水やりに行って、子どもたちの関わりの良いところを見付けて価値付けたり、そのことを他の子どもにお手紙やお話という形で伝えたりしましょう。



### 気付き！

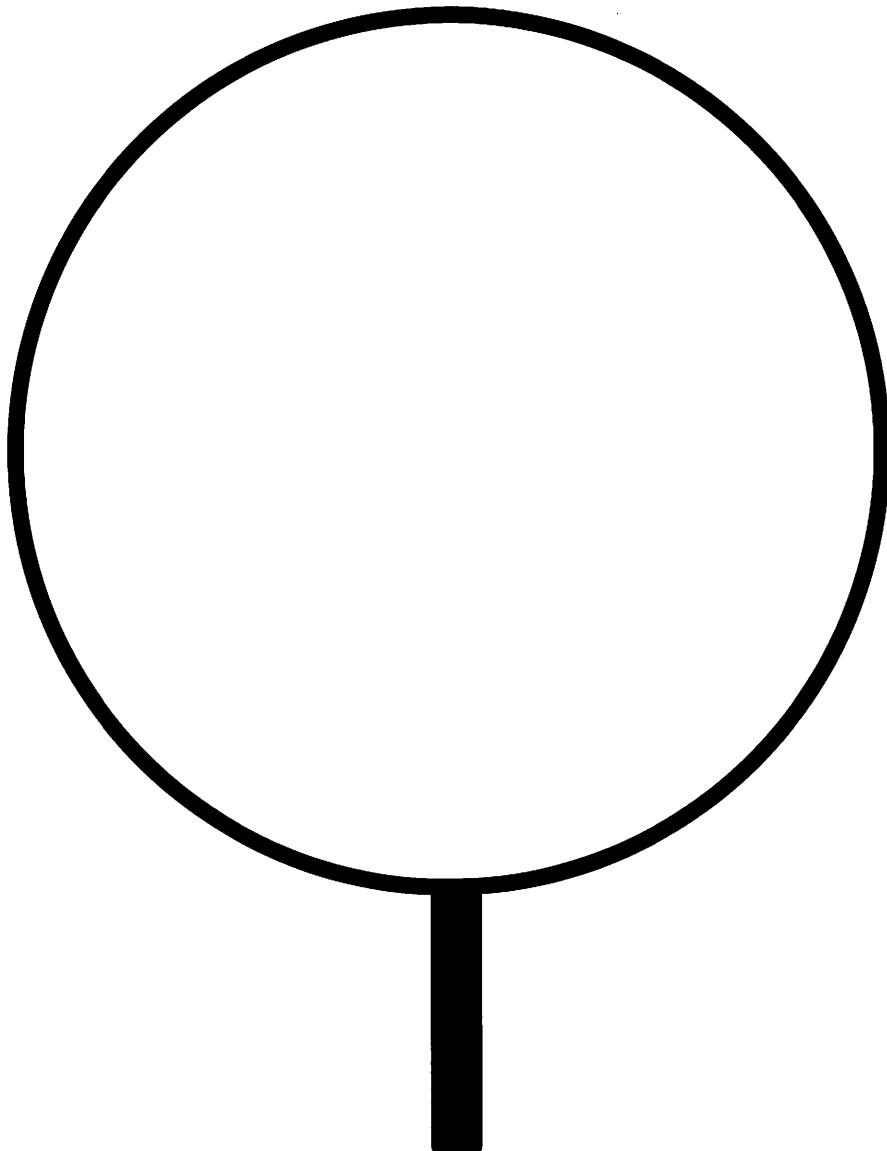
「〇〇ちゃんは、よく日の当たるところにおくんだね。」「〇〇ちゃんは、暑すぎるから少し日陰に置くんだね。」と、それぞれの考えを大切にしながらも、違いを浮き彫りにした言葉掛けすることで、比較して考える素地をつくっていきます。あさがおの置き場所の地図にカードを貼ってできます。

### あるある NG!

あさがおの置き場所は決まっている場合が多いのですが、日の当たり方、鉢の下が舗装されているかどうかなどで、育ち方は変わってきます。子どもたちの試行錯誤しながら育していく気持ちを大切にしましょう。

月 日

あさがおの たねを よくみたよ。



なまえ